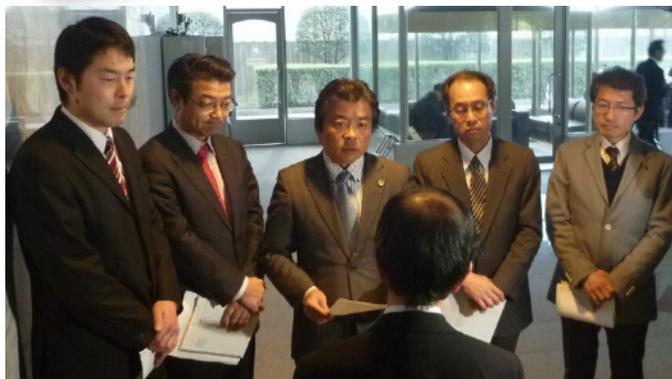


米軍垂直離着陸機
オスプレイ

低空飛行・夜間訓練は中止し、 配備は撤回せよ

日本共産党



左から山下氏、まじま氏、仁比氏、山本氏、田村九沖ブロック事務所長

九州防衛局は4日夜、3月6～8日に米軍岩国基地を拠点に行われる米海兵隊の垂直離着陸機MV22オスプレイの低空飛行訓練について、九州に設定されている「イエロールート」で実施されると、一方的に関係自治体に通告しました。その後この訓練は、5日午後4時過ぎになって急きょ、四国を中心に設定された「オレンジルート」に変更されたと発表しました。いずれにしろ、沖縄以外では初めての本土訓練となるもので、決して許すことはできません。

仁比氏は、「沖縄の負担軽減」を口実にしながら、訓練移転先の自治体から意見を聞くべき当然の責務を果たしていないこと、沖縄の訓練実態から住宅地の安全などに配慮するとした日米合意は全く守られていないことなどを追及。危険きわまる欠陥機の訓練中止と配備撤回を求めた小野寺五典防衛相あての要請書を防衛局側に手渡しました。

防衛局の野中泰彦基地対策室長は、防衛省を通じ米側への情報収集に努めていると繰り返し、「答えられない」「分からない」を連発しました。

山本氏（熊本）は、「地元の方々から強い憤りの声が上がっており、自治体の首長も反対を表明している」と指摘。まじま氏（福岡）は、「米国の言い分を伝えるのではなく、自治体の反対の声を米国に伝えてほしい」と訴え。山下氏（大分）は、「住民が生活に不安を抱えている時に、情報も開示せず、黙っているのは安全保障とは言わない」と抗議しました。

申し入れではマスコミ各社が取材に駆けつけ、テレビでも報じられました。

九州の日本共産党7県委員会と国会議員団九州・沖縄ブロック事務所は3月5日、米軍垂直離着陸機オスプレイの本土低空飛行訓練に抗議。訓練中止と配備撤回を九州防衛局に要請しました。仁比そうへい参院比例予定候補、まじま省三（福岡）、山本のぶひろ（熊本）、山下かい（大分）の各参院選挙区予定候補らが参加しました。



テレビ局や新聞社も取材に。記者の質問に答える仁比さん

申し入れで抗議した趣旨

- ① 今回の低空飛行訓練が、時間や場所など詳細な情報が当該自治体にも通知されず、危険な夜間訓練も予定されている。
- ② 墜落事故を繰り返してきた欠陥機であるオスプレイの飛行は、「可能な限り人口密集地を避ける」、「夜間飛行は必要最小限」などの日米合意事項すら守られず、住民の安全がないがしろにされている。
- ③ 政府が、米軍が公然と示した訓練ルートを不問に付し、日本の航空法が定める最低安全高度を下回る飛行を容認した。
- ④ これまでも米軍戦闘機による低空飛行訓練で被害が相次いでおり、傍若無人な低空飛行訓練そのものをやめさせるべきである。